# 開業小児科医を窓口としたウイルソン病マススクリーニングの試験的実施

（分担研究：効果的なマススクリーニングの施策に関する研究）

内野高子＊、遠藤文夫＊＊、松田一郎＊＊、小池恵美子＊＊＊

要約：ウイルソン病のマススクリーニング対象を新生児から乳幼児へ広げる手段として、開業小児科医に感冒などの病気で受診する患児・保護者を対象に、開業現場における任意のスクリーニングを平成８年１０月より開始した。今回は８医院でシステムが稼働するかどうかを検討した。各医院で保護者から同意と承諾をもらい検査料を徴収し、熊本市医師会検査センターでセルロプラスミン濃度を測定した。１２月までの３カ月間に計335名が検査を受けた。この集団での血中セルロプラスミン濃度の平均値は37mg/dLで、今回のカットオフ値15mg/dLは全体の1.2％未満に相当した。受診年齢は１－３才が多かった。今回の経験から、任意のスクリーニングシステムは開業医レベルで十分に機能することがわかった。今後は熊本市全域・近郊へこのシステムを拡大する方向で検討中である。

見出し語：ウイルソン病、任意スクリーニング、小児科専門開業医

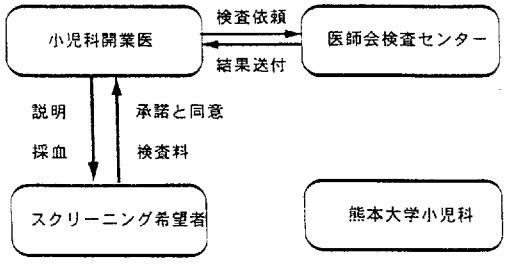
研究目的：ウイルソン病スクリーニング対象者を新生児から乳幼児期にひろげるための一つの方法として、小児科専門開業医の現場で任意のスクリーニングシステムが機能するかどうかの研究を行った。

対象および方法：熊本市で開業している小児科専門医院８施設に協力していただき、熊本大学小児科を含めて、熊本ウイルソン病診療連絡会という名称団体を設立した。検査機関として熊本市医師会検査センターに参加していただいた。この検査センターは、１医院を除いた残りすべての医院が、通常の診療でも諸検査を依頼している施設である。

今回のスクリーニングシステムを図１に示す。医院を感冒などで受診する患児とその保護者を対象とした。検査の説明や対象患者の選択は各医院の小児科医に一任した。検査を希望し同意と承諾が得られた保護者からは同意書に署名してもらい、検査料２００円を徴収した。今回は、濾紙血は使用せず、通常の生化学検査の項目である血中セルロプラスミンを検査施設にオーダーする方法でスクリーニングを行った。検査センターは、検体を受け取ってから約１０

＊熊本市立熊本市民病院新生児医療センター、＊＊熊本大学医学部小児科学教室、
＊＊＊熊本市医師会検査センター

図１　任意スクリーニングシステムの流れ




日間以内に検査結果を医院に返送し、再診時に結果を保護者に説明した。再受診のない場合は、異常がない時はその旨をはがきで知らせ、異常がある時は、プライバシー保護の観点から直接開業医から保護者に連絡するようにした。

熊本大学小児科はコーデイネーターの立場から、PR用のポスターやチラシの作成や同意書と簡単な説明文書の作成などの事務的な準備と、検査センターと開業医との連絡業務、ならびにスクリーニング陽性者がでた場合の２次検査の機関としての働きをした。今回のスクリーニングのカットオフ値は１５mg/dLとした。

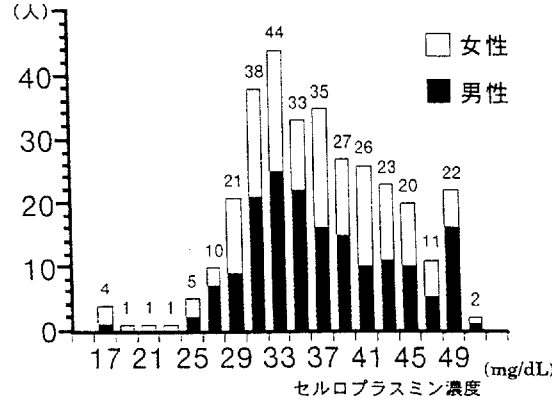
結果：平成７年１０月から１２月までの８医院でのスクリーニング実施数を表１に示す。３カ月で３３５名がスクリーニングを受けた。年齢別では０才から６才までが全体の９７％を占めており、特に１から３才までが５５％と多かった。

表１　スクリーニング希望者数の推移

| | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|
| A | 58 | 28 | 4 |
| B | 10 | 15 | 5 |
| C | 23 | 3 | 3 |
| D | 8 | 4 | 2 |
| E | 61 | 27 | 15 |
| F | 3 | 1 | 3 |
| G | 17 | 19 | 8 |
| H | 12 | 4 | 2 |
| | 192 | 101 | 42 |

この集団におけるセルロプラスミン濃度の平均値は３７mg/dLだった（図2）。年齢別にみると０－１歳代でセルロプラスミン濃度が低くでる傾向が認められた。今回のカットオフ値１５mg/dLは全体の１.２％未満に相当したが、一次スクリーニング陽性者はまだでていない。

図２　セルロプラスミン濃度の分布




考察：保護者のこどもの健康への関心は高く、有料でもスクリーニングを受ける層はかなりあることがはっきりした。開業の現場でスクリーニングシステムがスムーズに機能するためには、その開業医の診療スタイル範囲でできることが大切と思われる。日常の診療で利用している検査機関に日常使用している検査伝票でオーダーできる我々の方法は、開業医の負担を少しでも軽減するという点でよかったと思う。また、このシステムはウイルソン病に限らず、将来、広い意味での健康診断にも応用が可能と思われる。来年度はさらに熊本市全域ならびに近郊の小児科開業医へこのシステムを拡大していきたい。

協力医院（アイウエオ順）：浦本医院・江上小児科医院・えとう小児科クリニック・北野小児科内科医院・くどう小児科・杉野クリニック・瀬口医院・みやざきこどもクリニック

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:ウイルソン病のマススクリーニング対象を新生児から乳幼児へ広げる手段として、開業小児科医に感冒などの病気で受診する患児・保護者を対象に、開業現場における任意のスクリーニングを平成 8 年 10 月より開始した。今回は 8 医院でシステムが稼働するかどうかを検討した。各医院で保護者から同意と承諾をもらい検査料を徴収し、熊本市医師会検査センターでセルロプラスミン濃度を測定した。 12 月までの 3 カ月間に計 335 名が検査を受けた。この集団での血中セルロプラスミン濃度の平均値は 37mg/dL で、今回のカットオフ値 15mg/dL は全体の 1.2%未満に相当した。受診年齢は 1-3 才が多かった。今回の経験から、任意のスクリーニングシステムは開業医レベルで十分に機能することがわかった。今後は熊本市全域・近郊へこのシステムを拡大する方向で検討中である。